

大阪沖埋立処分場及び神戸沖埋立処分場における藻場創出

～ プロジェクト概要 ～

- 大阪沖埋立処分場と神戸沖埋立処分場は、護岸を海生生物の生育・生息環境に配慮した構造として、設計に緩傾斜護岸や傾斜護岸を採用することで、周辺海域の生産性向上に寄与しています。
- 定期的に環境モニタリング調査を実施し、効果の把握に努めています。



大阪沖埋立処分場



神戸沖埋立処分場

護岸を緩傾斜に設計

護岸の構造に緩傾斜を採用することで、海藻を始めとした様々な海洋生物の生育・生息の場を創出しています。

環境モニタリング調査の実施

潜水による生物モニタリング調査を定期的に行うことで、生物種の推移を把握し、緩傾斜護岸の効果検証を行っています。

環境学習による周知活動の実施

府県市が開催する各地の環境イベントに出展し、事業紹介や3Rの推進についての啓発を積極的に行っています。



緩傾斜護岸のイメージ

緩傾斜護岸とは・・・

護岸・堤防の裾幅を拡げ、勾配を緩やかにすることにより、耐震性を高めるとともに、身近な水辺空間を実現して親水性を向上させた護岸。また、海中部では海藻を生育させやすく多様な生態系を創出できる。

(大阪湾環境保全協議会HPより引用)



マアジ

マナマコ

シダモク

ワカメ



～ プロジェクトの特徴・PRポイント ～

大阪湾の沖合に位置する両施設は、埋立処分場としての役割を有しつつ、設計段階から生物生産性の向上を目指した構造を採用したことにより、現在は周辺に生育・生息する生物にとって重要な場として機能しています。今回、取得したクレジットを利用して、同じく大阪湾で活動している他団体へ情報共有を行い、ブルーカーボン増強検討の一助になることを期待しています。



ガパノリ

シダモク

ヤバズグサ

ワカメ

マクサ